

# 百合が原公園の改修に向けた方向性（検討資料）

## エントランスゾーン①

- 課題
  - ・メインエントランスや公園管理事務所の老朽化
  - ・ピーク時における駐車場不足や周辺道路の混雑
  - ・十分に利用されていないメインエントランス
- 方向性
  - ・公園の正面玄関としてふさわしい設えとしつつ、利用者の利便性に配慮した安全な空間として来園者を迎え入れるエリアとする
  - ・民間事業者との連携による駐車場の確保等による利便性向上
  - ・ウェルカムゾーンとの一体性の創出による活性化

## 公園全体の方向性

- 取組
  - ・管理運営方針におけるコンセプト『花と緑の“活動”と“発信”の拠点となるフラワーパーク』を高いレベルで達成する
  - ・立地条件の優れたエリアを新たに「ウェルカムゾーン」として位置付け、P-PFIの導入を図る
  - ・現状のゾーニングを基本としつつ、さらなる魅力向上を図るため、施設の利用状況などに応じたゾーニングの一部再編も検討する
  - ・ユニバーサルな公園づくりを目指し、より多くの利用者が利用しやすい設えとする

## アクティブゾーン

- 課題
  - ・利用の少ない施設（ゲートボール場等）の存在
  - ・'86花博に合わせ整備した遊具の老朽化
- 方向性
  - ・公園内の数少ない動的な空間として、安全・安心を第一にパークゴルフや遊具といったアクティビティを受入れるエリアとする
  - ・一部の施設の移設や縮小によるゾーニングの一部再編を検討

## 樹林・管理ゾーン

- 課題
  - ・樹木の成長による視認性の低下（防犯上の懸念）
  - ・休養施設等の老朽化
  - ・十分に利活用されていないエリア
- 方向性
  - ・展示用植物や樹林地等の機能を生かしつつ、利用者にとって居心地の良いエリアとする

## フラワーゾーン

- 課題
  - ・世界の百合広場、苗圃を始めとする施設全体の老朽化
  - ・緑のセンターやリリートレイン駅舎などの老朽化
- 方向性
  - ・公園の特性を表す象徴的な空間を維持する
  - ・世界の百合広場やロックガーデンといった施設の特徴や景観を踏まえた多様な空間を提供するエリアとする
  - ・ユニバーサルな環境整備による誰もが利用しやすい空間を形成する



## 芝生ゾーン

- 課題
  - ・サイロの老朽化
- 方向性
  - ・休息、ピクニックや軽運動といった現状の多様な活動を受け入れるエリアを維持しつつ、見通しや開放感の向上を図る
  - ・サイロはランドマーク（修景施設）として引き続き活用する

## エントランスゾーン②

- 課題
  - ・ピーク時における駐車場不足
  - ・隣接地に「未活用エリア」が存在
- 方向性
  - ・公園の裏玄関としてふさわしい設えを維持し、利用者の利便性に配慮した安全な空間として来園者を迎え入れるエリアとする
  - ・隣接する「未活用エリア」を活用し、新たな利用や賑わいを創出

## 庭園ゾーン（有料施設：世界の庭園）

- 課題
  - ・施設全体の老朽化（R4に改修を行った日本庭園を除く）
  - ・認知度が低く、利用も少ない
- 方向性
  - ・有料施設としての世界の庭園のあり方について、姉妹都市の意向も確認しつつ、検討を進める

## ウェルカムゾーン（P-PFI導入検討区域）

### 現状及び課題



- ・公園の角地や第一駐車場の隣接地周辺は、樹木の大き化・密植により視認性が低下し、防犯上の問題を懸念する声も挙がっている
- ・歩道から立ち寄り人も少なく、十分に利活用されていないエリア

### 基本的な考え方

- 百合が原公園らしさを感じられるみどりの空間**
  - ・造成時に植栽された樹木も活かしつつ、花卉等をはじめとした「百合が原公園らしさ」を感じられる景観をつくる
- 新たな地域の結節点をつくる**
  - ・幹線道路に囲まれた角地としての立地を生かし、地域の新たなアクセスポイントへ
- 利便性、賑わいの創出**
  - ・利用者ニーズの高い、飲食の提供可能な施設を設けることで、利便性の向上や新たな賑わい創出へつなげる
  - ・イベント等に活用可能なスペースを設ける

### 整備の方向性

- 立ち寄りやすい明るく開放的な出入口と歩道環境**
  - ・適切な樹木の伐採・間伐により、緩衝帯としての機能を維持しながら、光を取り込める空間にする
  - ・幹線道路沿いの通行者が立ち寄りたくなる環境を創出
- 民間事業者と連携し、公園の課題改善、魅力アップへ**
  - ・オープンスペースの確保により民間事業者の参入を促進
  - ・ニーズの高い飲食施設の整備や課題となっている駐車場の増設にP-PFIを活用
  - ・民間事業者と連携しながら、特徴ある花や樹木、イベント、飲食を楽しみながら休憩できる等に活用可能な空間へとリニューアル